

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-244770

(43)公開日 平成8年(1996)9月24日

(51)IntCl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D	17/32		B 6 5 D	
	17/50			
	39/16		39/16	D

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平7-79914

(22)出願日 平成7年(1995)3月9日

(71)出願人 595049747

山本 隆子

兵庫県姫路市広畑区西蒲田969番地

(72)発明者 山本 隆子

兵庫県姫路市広畑区西蒲田969番地

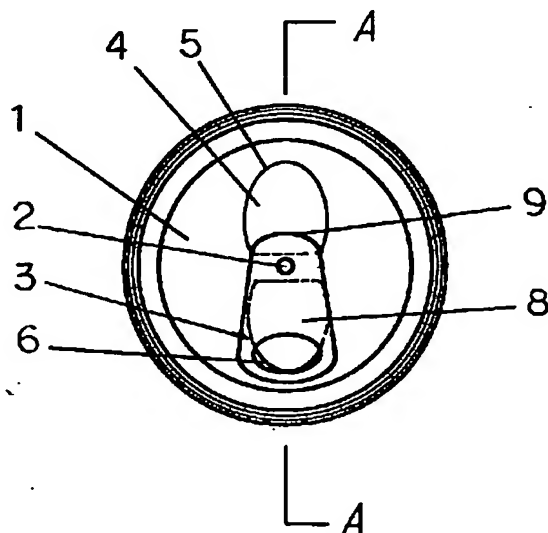
(54)【発明の名称】 注ぎ口をシールできる缶体の蓋

(57)【要約】

【目的】 清涼飲料やビール等の缶を開封後、注ぎ口をシールできる缶体の蓋

【構成】 蓋の中心部にビスによりアルトトップ片を回動自在に取り付けると共に該アルトトップ片の根本部には、注ぎ口用フタが、蓋の上面に切込を入れて形成されており、該アルトトップ片の下部には、注ぎ口と殆ど同一形状のシールフタが固着されている。

【効果】 飲用途中の飲料をシールした状態で一時保管できる。このシールは特に乗り物の乗車中に有効であり、乗用車、電車、バス等の車中における振動に対しても十分に機密性を保つことができる。従って、走行中に缶が転倒しても内容物が漏出することがない。また、家庭内においても清涼飲料やビールだけでなく炭酸系の飲料等を途中で飲用中止し、1両日中程度保管する場合においても炭酸等が抜けることなく保管が可能となる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】蓋の中心部にビスによりアルトトップ片を回動自在に取り付けると共に、該アルトトップ片の根本部には、注ぎ口用フタが、蓋の上面に切込を入れて形成されており、該アルトトップ片の下部には、注ぎ口と殆ど同一形状のシールフタが固着されていることを特徴とする注ぎ口をシールできる缶体の蓋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、清涼飲料やビール等の缶を開封後、注ぎ口をシールできる缶体の蓋に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、清涼飲料やビール等を封入するための容器として鉄製或はアルミ製の缶が用いられている。これらの缶の蓋にはアルトトップ片が付いており、このアルトトップ片を指先で持ち上げると注ぎ口が開く。このアルトトップ片には蓋から完全に切除されるものと、蓋の一部を接続したままで飲用できるものがある。しかしながら、いずれの方式であっても、一旦開口した注ぎ口をシール（密閉）することは不可能であるため、途中で飲用を中断する時の一時保管方法に困っていた。これを解決するために実開平5-7632号公報による蓋付き開栓罐及び実開平6-8233号公報による缶体の蓋が開示されている。前者はアルトトップ片を引っ張ることにより、反対側片が、罐頂部面の一部を、アルトトップ片の反対端部を押して開けるアルトトップ型の開栓罐において、該アルトトップ片を止める軸部材を利用して、前記罐の頂部面の上で、該アルトトップ片と該罐頂部面の間に、該罐頂部面をほぼ全面を覆うような、該頂部面と殆ど同型の外蓋板を取り付け、該外蓋板は該軸部材の周りに回転自由であり、更に該外蓋板のうち、該アルトトップ片で開ける部分に開口部が設けられているものである。後者のものは現状フランジ部と、その内側に形成される溝部と、これらに囲まれるパネル部とから成り、パネル部に設けられた注ぎ口の開口部に、開口部をシールするキャップを嵌合した缶体の蓋において、前記キャップの外周に、キャップを補強する補強リングを嵌合したものである。また、前記キャップは、パネル部のリベットを中心に枢動可能であるアーム端部に連結されている。また、前記補強リングはキャップと一体成形されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記考案によるものはそれぞれ次に示すような問題点をもっている。実開平5-7632号公報による蓋付き開栓罐は、蓋部分が外蓋板と罐上面板との2枚合わせとなっており、加工が複雑となり製作コストも増加する。その上、外蓋板と罐上面板とは単に2枚を重ね合わせただけであるから、完全にはシールができていない。そのため

缶本体が横向き或は上下逆さまになると、缶内部の残留飲料が外蓋板と罐上面板との間を通過して漏出する。一方、実開平6-8233号公報による缶体の蓋は、缶の内容物を完全にシールすることを目的として考案されたものであるため、蓋が非常に複雑な構造となっている。即ち、パネル部のリベットを中心に枢動可能であるアーム端部に、注ぎ口をシールするキャップを連結すると共に、このキャップを補強する補強リングをキャップと一体成形したもので、使用時には補強リングを折り返してキャップに被せる構造となっている。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために、本発明による注ぎ口をシールできる缶体の蓋は、蓋の中心部にビスによりアルトトップ片を回動自在に取り付けると共に、該アルトトップ片の根本部には、注ぎ口用フタが、蓋の上面に切込を入れて形成されており、該アルトトップ片の下部には、注ぎ口と殆ど同一形状のシールフタが固着されている。

【0005】

【作用】この発明による注ぎ口をシールできる缶体の蓋は、上記のように構成されているから、清涼飲料やビール等を飲む時は、図1に示すアルトトップ片3の孔6を指で持ち上げるとアルトトップ片3の根本部9が押し下げられ、これにより注ぎ口用フタ4に蓋1の内側へ折れ曲がろうとする力が加わる。蓋1と注ぎ口用フタ4とは予め切込5が形成された状態で接続されているから、図3に示すように、前記の押し下げ力により切込5が切断され、注ぎ口用フタ4は蓋1の内側に折れ曲がり注ぎ口7が開く。次にアルトトップ片3を押し下げて元の状態に戻しても、注ぎ口用フタ4は蓋1の内側に折れ曲がった状態を保持する。この状態で注ぎ口7から内容物を飲むことができるが、途中で飲用を一時中止する場合は、図2に示すようにビス2を中心にしてアルトトップ片3を180度回転すると、シールフタ8が注ぎ口7の丁度上面に移動する。この状態においてアルトトップ片3を押し下げると、図5に示すようにアルトトップ片3の下部に固着されたシールフタ8が注ぎ口7に嵌合され、内容物はシールされこぼれることがない。

【0006】

【実施例】以下、この発明をその実施例を示す図に基づいて説明する。図1は本発明の缶体の蓋の平面図、図2は注ぎ口に嵌合してシールした状態を示す平面図、図3はアルトトップ片を持ち上げた状態を示す蓋の断面図、図4は図1のA-A線断面図、図5は図2のB-B線断面図である。図において蓋1は円板状に形成し、その中心部にビス2によってアルトトップ片3を取り付ける。アルトトップ片3の根本部9には注ぎ口用フタ4が接しており、この注ぎ口用フタ4の外周の一部を除いて蓋1に切込5を入れて形成している。アルトトップ片3はビス2によって回動自在に蓋1に取り付けられており、アルトッ

3

4

ア片3の先端近辺には指で持ち上げるための孔6が貫設されている。またアルトップ片3の下部には、注ぎ口7と同一形状のシールフタ8が固着されている。このシールフタ8はゴム、軟質プラスチック、ビニール或は発泡スチロール等で作られており、アルミニウムの缶はアルミニウムでできた蓋、鉄の缶には鉄でできた蓋が取り付けられる。ビス2を中心にしてアルトップ片3を180度回転すると、シールフタ8が注ぎ口7の丁度上面にくる位置に形成する。

【0007】清涼飲料やビールを飲む場合は、図1に示すアルトップ片3の孔6を指で持ち上げるとアルトップ片3の根本部9が押し下げられ、これにより注ぎ口用フタ4に蓋1の内側へ折れ曲がろうとする力が加わる。蓋1と注ぎ口用フタ4とは予め切込5が形成された状態で接続されているから、図3に示すように、前記の押し下げ力により切込5が切断され、注ぎ口用フタ4は蓋1の内側に折れ曲がり注ぎ口7が開く。次にアルトップ片3を押し下げて元の状態に戻しても、注ぎ口用フタ4は蓋1の内側に折れ曲がった状態を保持する。この状態で注ぎ口7から内容物を飲むことができるが、途中で飲用を一時中止する場合は、図2に示すようにビス2を中心にしてアルトップ片3を180度回転すると、シールフタ8が注ぎ口7の丁度上面に移動する。この状態においてアルトップ片3を押し下げると、図5に示すようにアルトップ片3の下部に固着されたシールフタ8が注ぎ口7に嵌合され、内容物はシールされこぼれることがない。再度飲用する場合には、アルトップ片3を指で持ち上げてビス2を中心に180度回転させると、注ぎ口7が再び開口し飲用できる状態となる。

【0008】

【発明の効果】以上のように、本発明による注ぎ口をシールできる缶体の蓋を用いれば、飲用途中の飲料をシールした状態で一時保管できる。このシールは特に乗り物の乗車中に有効であり、乗用車、電車、或はバス等の車中における振動に対しても十分に密封性を保つことができる。従って、走行中に缶が転倒しても内容物が漏出することがない。また、家庭内においても清涼飲料やビールだけでなく、炭酸系の飲料等を途中で飲用中止し、1兩日程度保管する場合においても炭酸等が抜けることなく保管が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の缶体の蓋の平面図である。

【図2】注ぎ口に嵌合してシールした状態を示す平面図

【図3】アルトップ片を持ち上げた状態を示す蓋の断面図

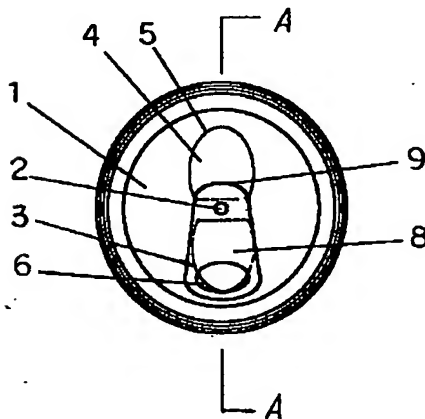
【図4】図1のA-A線断面図

【図5】図2のB-B線断面図である。

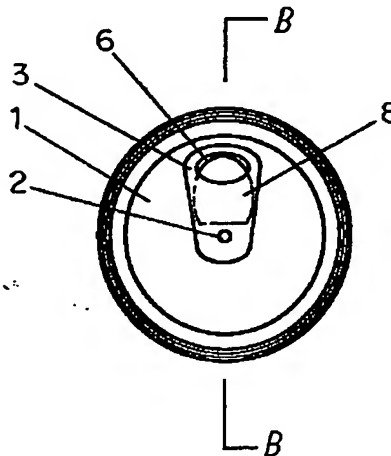
【符号の説明】

- | | |
|---|--------|
| 1 | 蓋 |
| 2 | ビス |
| 3 | アルトップ片 |
| 4 | 注ぎ口用フタ |
| 5 | 切込 |
| 6 | 孔 |
| 7 | 注ぎ口 |
| 8 | シールフタ |
| 9 | 根本部 |

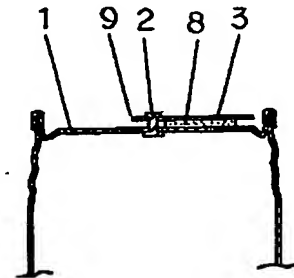
【図1】



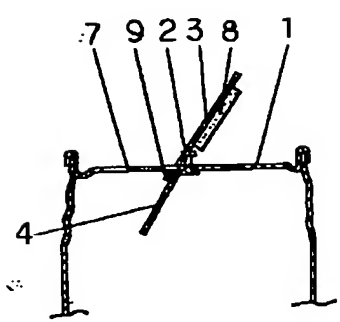
【図2】



【図4】



【図3】



【図5】

